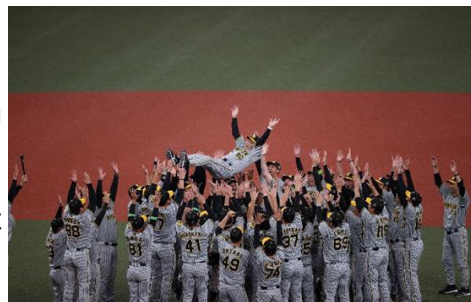


2023年 関西元気文化圏賞 贈賞理由

大賞

阪神タイガース／岡田監督

18年ぶりにセ・リーグを2位と11.5ゲーム差と圧倒的な強さで制覇し、合言葉「アレ」は関西以外でも広い範囲で流行語となり、関西から日本中に元気を与えた。若手中心のチーム作りや「守りの野球」を徹底した岡田監督の采配が際立ち、38年ぶりの日本一へ導いた。パシフィック・リーグの覇者オリックス・バファローズと日本一を競う日本シリーズは「関西ダービー」と称され、経済への波及効果も絶大であり、関西の盛り上げに大いに貢献した。



©阪神タイガース

特別賞



提供：OSK日本歌劇団

おえすけーにっぽん か げき だん

OSK日本歌劇団

1922年松竹楽劇部として創設され、2022年に100周年を迎えた。2023年連続テレビ小説「ブギウギ」において翼和希がヒロインの先輩・橘アオイ役として出演、他30名の劇団員がOSK日本歌劇団をモデルとした梅丸少女歌劇団(USK)劇団員役で熱演し、ラインダンスやレビューシーンが大きな話題を呼び、全国の人々に強いインパクトと感動を与え元気づけた。関西から歌劇の魅力伝え、発展させてきた功績は大きい。

文化庁

2023年3月より文化庁が京都に移転し業務を開始。このたびの文化庁の京都への全面的な移転は、明治以来初となる中央省庁の移転であり、国内外の多くの人々を魅了する文化資源が数多く存在する関西で、その機能を強化しながら業務を開始し、日本全国の文化の力による地方創生の大きな一歩を踏み出した。単に東京一極集中の是正にとどまらず、文化芸術のグローバルな展開、文化芸術のDX化、観光や地方創生に向けた文化財の保存活用などを始めとする新たな文化行政を推進する上でも大きな契機になるものである。

ニューパワー賞

むらかみ しょうき
村上 頌樹 (プロ野球選手)



©阪神タイガース

兵庫県南あわじ市出身で小学校1年から野球を始め、3年時から投手を務める。高校・大学と輝かしい成績を収め、2020年のドラフト会議で阪神タイガースから5位指名を受け入団。今シーズンの活躍は、セントラル・リーグにおける開幕からの連続インニング無失点記録保持者であり、最優秀防御率(1.75)のタイトルを獲得。「NPB AWARDS(アワーズ) 2023」では、史上三人目となる「最優秀新人賞」と「最優秀選手賞」をダブル受賞。38年ぶりのチーム日本一に大いに貢献した。今後の更なる活躍が期待される。

ふじなみ あかり
藤波 朱理 (レスリング選手)



三重県四日市市出身の女子レスリング選手(53kg級)。中学時代から頭角を現し、いなべ総合学園高校1年でインターハイ優勝、2年で初出場した全日本レスリング選手権大会で初優勝。日本体育大学進学後は、アジア選手権や世界選手権など数々の世界大会を制覇。2023年4月、公式戦の連勝を119まで伸ばし、レジェンド・吉田沙保里が持つ連勝記録に並び、現在130連勝を更新中。9月の世界選手権で二度目の優勝を飾り、パリオリンピック代表に内定。今後の更なる活躍が期待される。

まえだ ひな
前田 妃奈 (ヴァイオリニスト)



©Taira Tairadate

大阪府豊中市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、東京音楽大学に特別特待奨学生として在学中。2022年10月、若手ヴァイオリニストの登竜門と言われるヘンリック・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクール(ポーランド)で優勝。日本人の優勝は1981年以来41年振りの快挙。優勝後約20カ国、60地域での演奏会を開催、高い評価を得た。2022年度大阪文化祭奨励賞受賞。大阪から世界に羽ばたき、国際的に注目を集める新進気鋭のヴァイオリニストの今後の活躍が期待される。

よしだ いちすけ
吉田 一輔 (文楽人形遣い)



世襲制のない人形浄瑠璃文楽座では、長い歴史の中でも人形遣いが親子四代続くのは初めての事となる。女方を得意とし可憐な町娘、優雅で品の良い姫には定評がある。落語家立川志の輔の「志の輔らくご」への参加、三谷幸喜の「其礼成心中(それなりしんじゅう)」に挑戦するなど、文楽の枠を超えて幅広い活動を展開。伝統を守りつつも新たな可能性を追求し、関西の文化に大きな影響を与えている。これまでの業績と更なる活躍を期待する。

更科姫実は鬼女『紅葉狩』
(令和4年7・8月 国立文楽劇場)